

三陸復興国立公園 2023

正式名称	三陸復興国立公園												
場所	岩手・宮城で震災遺構などを巡った <a href="http://env.go.jp">環境省_三陸復興国立公園 (env.go.jp)</a>												
訪問の経緯	2015年に訪問しているが震災遺構の整備が進んでおり、7年ぶりに再訪した。前回訪問記もご覧頂ければ有難い。 <a href="#">sanriku-fukko.pdf (risk-sense.net)</a>												
施設紹介	<p>① 学ぶ防災（岩手県宮古市田老）</p> <p>田老は何度か津波で壊滅的被害を受け、高さ 10m の「スーパー堤防」を築いた。以前の町は避難しやすいように道路は基盤の目のようになっていた。しかし、今回も被害を免れなかった。「スーパー堤防」への過信と堤防で海面の様子を見ることができなかったこともその要因といわれている。古くから「つなみてんでんこ」と言い伝えられ、津波が来たら、てんでん・ばらばらに逃げなさいと言われてきたが、いざとなると難しいようだ。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生時期</th> <th>田老で観測された津波</th> <th>犠牲者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>明治 29 (1896) 年 6 月 15 日</td> <td>15m</td> <td>1,859 人</td> </tr> <tr> <td>昭和 8 (1933) 年 3 月 3 日</td> <td>10m</td> <td>911 人</td> </tr> <tr> <td>平成 23 (2011) 年 3 月 11 日</td> <td>17.3m</td> <td>181 人。地域住民の 4.1%であり、極めて多いようだ</td> </tr> </tbody> </table>	発生時期	田老で観測された津波	犠牲者	明治 29 (1896) 年 6 月 15 日	15m	1,859 人	昭和 8 (1933) 年 3 月 3 日	10m	911 人	平成 23 (2011) 年 3 月 11 日	17.3m	181 人。地域住民の 4.1%であり、極めて多いようだ
発生時期	田老で観測された津波	犠牲者											
明治 29 (1896) 年 6 月 15 日	15m	1,859 人											
昭和 8 (1933) 年 3 月 3 日	10m	911 人											
平成 23 (2011) 年 3 月 11 日	17.3m	181 人。地域住民の 4.1%であり、極めて多いようだ											

事前予約でホテル 6 階まで行ける。また、堤防の設置状況をみながら当時の様子を聞くことができる。堤防は更に高くなり、水門は全て自動となった。

見学申し込み：(一社) 宮古観光文化交流協会

[田老の学ぶ防災ガイド - 宮古観光文化交流協会 \(kankou385.jp\)](http://kankou385.jp)

堤防が新たに設置され、道の駅ができ、野球場ができ、整備されたが、そこに以前の町の暮らしはない。

訪問した 11 月 5 日は、奇しくも「津波防災の日」「世界津波の日」であった。安政元年 11 月 5 日、安政南海地震で和歌山県を津波が襲った際、人々を高台へ避難させ命を救った浜口梧陵の逸話にちなんでいるようだ。

[11 月 5 日は「津波防災の日」「世界津波の日」 - 内閣府 \(cao.go.jp\)](http://cao.go.jp)

なお、たろう観光ホテルは、高台で「渚亭たろう庵」として再生している。

## ② 盛駅 (岩手県大船渡市盛町)、JR 大船渡駅

盛駅は、三陸鉄道・岩手開発鉄道及び JR の駅である。

三陸鉄道は、震災により不通となっていたが、平成 25 (2013) 年 4 月 3 日再開した。JR は引き続き BRT (Bus Rapid Transit) である。

JR 大船渡駅は盛駅の隣の駅である。



三陸鉄道盛駅



大船渡駅から盛駅方向に走る BRT の線路 (道路)



大船渡駅発の BRT

## ③ KYASSEN、かもめテラス (岩手県大船渡市大船渡町)

夕食はホテルそばの KYASSEN。前回訪問時は、大船渡屋台村があった。復興の象徴と言われていたが、整備された。

[キャッセン大船渡 \(kyassen.co.jp\)](http://kyassen.co.jp)

さいとう製菓の「かもめテラス」ができた。



かもめテラス



店内展示の「佐々木朗希」(陸前高田出身)

前回訪問時は、さいとう製菓中井工場に「大船渡津波伝承館」があったが、常設展示継続が難しいことから 2023 年 4 月 1 日、「大船渡津波伝承会」と改称し、津波伝承の話をしている。

[大船渡津波伝承館 \(ofunato-tsunami-museum.org\)](http://ofunato-tsunami-museum.org)

## ④ 加茂神社 (岩手県大船渡市)

昭和 35 (1960) 年 5 月 24 日のチリ津波に起因し、津波警報塔を設置。東日本

震災以降、毎月 11 日に点検のためサイレンを鳴らしていたが、2023 年 3 月で終了した。

<https://www3.nhk.or.jp/news/morioka/20230331/6040017241.html>



津波警報塔



加茂神社からみた大船渡の街並み

⑤ 碁石海岸 (岩手県大船渡市)

名勝である。雷岩は津波の影響を受けた。



海馬島



雷岩と乱爆谷



津波で濡れた雷岩 (震災当日)

⑥ 高田松原津波復興祈念公園 (岩手県陸前高田市気仙町)

前回訪問時は遺構が点在するのみで、一本松駐車場が作られ観光物産施設「一本松茶屋」があった。また、山から土砂が削り取られ、全長 3km のベルトコンベアーで今泉地区の高台造成地へと運ばれていた。このベルトコンベアーは地元の小学生からの応募で「希望のかけ橋」と名付けられた。すでに造成は終了し、一帯は整備され、令和元 (2017) 年 9 月 22 日から順次オープン、利用が開始された。



下宿定住促進住宅



陸前高田ユースホテル



タピック 45

(旧・道の駅高田松原)



奇跡の一本松

東日本津波伝承館

[高田松原津波復興祈念公園\(takatamatsubara-park.com\)](http://takatamatsubara-park.com)

⑦ 旧大川小学校（宮城県石巻市釜谷）

2011年3月11日14:46 地震発生

14:52 大津波警報

15:00頃から 保護者が迎えに来る。市の広報車が高台避難を呼びかけ

15:32 津波が堤防を超える

15:36 移動開始

15:37 学校に津波到達

この間、何があったのか詳細はわからない。

児童74名、教職員10名が犠牲となった。

当時の状況を明らかにすべく、裁判が起こされたが、責任の追及はされたが何も明らかにならなかった。

裁判の記録は「生きる」として映像化されている。

[映画『「生きる」\(ikiru-okawafilm.com\)](http://ikiru-okawafilm.com)

大川小学校は遺構として整備され、大川震災伝承館が併設されている。



[石巻市震災遺構大川小学校・大川震災伝承館\(tohokukanko.jp\)](http://tohokukanko.jp)



被災跡地でトマトやパプリカの栽培工場が稼働

[被災跡地を活用\(kahoku.news\)](http://kahoku.news)



女川浜の街並みも整備された

[ハマテラス\(onagawa-mirai.jp\)](http://onagawa-mirai.jp)

⑧ 旧女川交番（宮城県女川町女川浜）

津波により鉄筋コンクリート製の基礎部分が引き抜かれ倒壊した。津波の威力は凄まじい。



静かだった海から津波が到来し交番は倒壊

少しはなれた高台へ移転

[東日本大震災遺構旧女川交番\(tohokukanko.jp\)](http://tohokukanko.jp)

コース等  
記事作成

コース等

2023.11.5、新幹線で盛岡。レンタカーで移動。

盛岡駅→田老（昼食：道の駅たろう・善助食堂・わかめ麵のつけ麵）→盛岡→大船渡（宿泊：ルートイン大船渡、夕食：KYASSEN・山福・にぎり、穴子天。くらげを求めてマンボウが来るそうだが、今回は品切れ）

11.6、大船渡駅→加茂神社→基石海岸→高田松原津波復興祈念公園→旧大川小学校→道の駅硯上（けんじょう）の里おがつ（昼食：海里・海うどん。硯（すずり）が名産だそう）→旧女川交番→仙台（夕食：駅構内牛タン横丁・利休（レンタカー事務所で「善次郎」を推薦されたが長蛇の列で断念）。

仙台から新幹線で帰宅。

記事作成・三谷、写真撮影：中山、三谷

震災遺構として整備され残っていくものもあるが、消えていくものもある。現物、現人（語り部）はインパクトが大きいが、何を残して何を語り継いで行くのか衆知の結集が必要である。私は震災以降この地域の訪問は3回目になるがこちらの関心も変わっていく。震災当時、業界団体の勉強会で東京都心に行った。電車は止まり、歩き出したが春にしては寒く、居酒屋で時間を過ごした。幸い、電車が動きだし、翌日未明には帰宅できた。しかし、記憶は曖昧である。なお、3年後、訪問予定（三谷）。

高速道路はまだ片側1車線の対面通行では有るが盛岡～気仙沼～仙台に繋がっており、一般道もきれいに整備されている。また防潮堤もすべての海岸線に完成、ホテルやお店等の商業設備は想定以上に復興しているが、まだ住民の生活は基に戻っていない。

なお、盛岡から仙台までの走行距離は404km（中山）。

震災後初めての三陸訪問。高田松原津波復興祈念公園には献花台があり、亡くなった方達の冥福を祈った。奇跡の一本松はモニュメントになっていた。内陸に整備された高速道路、海岸の防潮堤、高台の住宅地と、海と切り離された人々に津波の怖ろしさを語り継ぐことの大切さを感じた（山川）。